

著者紹介

肖 鋒

現職：東京工業大学大学院総合理工学研究科助教授。主たる研究テーマ：気象モデリング、数値流体力学。日本機械学会、日本気象学会、日本数値流体力学学会各会員。
E-mail:xiao@es.titech.ac.jp
http://www.es.titech.ac.jp/~xiao/

青木 尊之

現職：東京工業大学学術国際情報センター教授。主たる研究テーマ：超並列数値流体シミュレーション。日本物理学会、日本機械学会、日本原子力学会、日本電気学会、日本数値流体力学学会、日本コンピュータ科学会、米国物理学会各会員。
E-mail:taoki@nr.titech.ac.jp
http://www.nr.titech.ac.jp/~taoki/

伊藤 昌幸

1984年新潟大学大学院工学研究科情報工学専攻修了。同年日本電信電話公社入社。以来、構内系通信システムの研究開発に従事。現在、ブロードバンド情報家電の研究開発に従事。

入江 文平 (正会員)

1984年東京大学工学系研究科計数工学専門課程修了。同年(株)東芝入社。文字認識技術の研究開発、設計に従事。1988～90年(株)ATR視聴覚機構研究所に出向、ニューラルネットワークの研究を行う。現在(株)東芝e-ソリューション社柳町工場に勤務。電子情報通信学会、日本神経回路学会各会員。

戎崎 俊一 (正会員)

昭和56年大阪大学理学部物理学専攻卒業。昭和58年東京大学大学院理学系天文学専門課程修士課程修了。昭和60年日本学術振興会特別研究員。昭和61年東京大学大学院理学系天文学専門課程博士課程修了。理学博士。同年米国 National Research Council Resident Research Associate。昭和63年神戸大学大学院自然科学研究科助手。平成元年東京大学教養学部助手。平成3年助教授。平成7年理化学研究所主任研究員。平成11年同情報基盤研究部長。現在に至る。昭和58～61年X線バーストの理論的研究。昭和61～63年超新星爆発における物質混合の研究。平成元～3年重力多体問題専門計算機の開発、銀河力学。平成7年～現在分子動力学専用計算機の開発計算機を使った教育活動の研究。平成8～12年分子動力学専用計算機世界最速。平成8年(株)日経サイエンス主催エエ第2回コンピュータ・ビジョンコンテスト最優秀賞。平成11年Gorden Bell Prize, Peak Performance Category各受賞。

太田 昌孝 (正会員)

1959年生。1987年東京工業大学総合情報処理センター助手。2000年同大情報理工学研究科講師。理学博士。コンピュータグラフィクス、UNIX、計算の高速化、文字コード、DNS、マルチキャスト、QoS保証、超高速ルーティングなどの研究に従事。

北山 文彦 (正会員)

日本アイ・ピー・エム(株)東京基礎研究所勤務。オブジェクト指向、ソフトウェア、Webアプリケーション開発技術に関する仕事に従事。E-mail:ktym@jp.ibm.com

斉藤 健 (正会員)

昭和62年慶應義塾大学理工学部電気工学科卒業。平成元年同大学院理工学研究科電気工学専攻修了。同年東芝入社。現在、同社研究開発センター通信プラットフォームラボラトリー研究主務。

宍戸 周夫

1948年生。1971年上智大学法学部卒業。同年日刊工業新聞社入社。出版局編集長、編集局編集委員。1997年よりフリーランス・ジャーナリスト、テレメディア代表。著書「マイクロソフトの真実」、「データウェアハウス」、「エンタープライズ・コンピューティング」など。

妹尾 稔

名古屋商科大学経営情報学科教授。情報システム。著書「情報化戦略あなたが主役」、「SE育成読本」。経営情報学会、品質管理学会、プロジェクト管理学会各会員。

瀧 剛志

中京大学情報科学部メディア科学科助手。平成6年中京大学情報科学部卒業。平成11年同大学院博士課程修了。現在、画像処理とスポーツ応用に関する研究に従事。電子情報通信学会、スポーツ産業学会各会員。
E-mail:taki@scs.chukyo-u.ac.jp

鶴保 征城 (正会員)

NTTソフトウェア(株)代表取締役社長。昭和41年大阪大学大学院電子工学(修士)修了。同年電電公社入社。平成元年NTTソフトウェア研究所長。平成7年NTTデータ通信(株)常務取締役技術開発本部長。平成9年より現職。工学博士(平成3年大阪大学)。

長谷川純一 (正会員)

中京大学情報科学部メディア科学科教授。昭和49年名古屋大学・工・電気・電子卒業。昭和54年同大学院博士課程修了。パターン認識、画像理解、および、それらの医療・スポーツ応用に関する研究に従事。日本ME学会、米国IEEE各会員。
E-mail:hasegawa@scs.chukyo-u.ac.jp

姫野龍太郎 (正会員)

1977年京都大学・工・電気卒業。1979年同大学院修士課程修了。工学博士。1979～97年日産自動車(株)。主に自動車空力の数値解析の研究に従事。1998年理化学研究所勤務。現在、情報環境室室長。埼玉大学大学院客員助教授。著書「魔球をつくる」など。

平澤 茂樹 (正会員)

1988年東京理科大学理学研究科物理学専攻修士課程修了。同年(株)日立製作所入社。現在、システム開発研究所第5部主任研究員。大規模分散システム、データ放送システム、双方向システムの研究開発に従事。

広瀬 紳一 (正会員)

日本アイ・ピー・エム(株)東京基礎研究所勤務。オブジェクト指向、ソフトウェア開発環境に関する仕事に従事。
E-mail:hiroses@jp.ibm.com

深瀬 弘恭 (正会員)

昭和26年東京生まれ。昭和53年埼玉大学理学部卒業。銀行系ソフトウェア会社を経て、(株)アスキー入社。ソフトウェア開発部門、新規事業部門を歴任。日本にUNIXを導入した草分け的存在として活躍。平成4年(株)インターネットイニシアティブ(現(株)インターネットイニシアティブ)設立。平成6年取締役会長。

藤澤 俊之 (正会員)

1992年電気通信大学卒業。同年NHK入局。1996年より放送技術研究所でHDTV用ディスクシステムや家庭用ストレージシステム(ホームサーバ)の研究開発を経て、現在、ネットワークサービスの研究に従事。

前川 徹 (正会員)

1955年生。名古屋工業大学情報工学科卒業。1978年通産省入省。機械情報産業局情報政策企画室長、JETRO New Yorkセンター産業用電子機器部長、情報処理振興事業協会セキュリティセンター所長を経て、1999年早稲田大学国際情報通信研究センター客員教授。

松下 温 (正会員)

昭和38年慶應義塾大学工学部電気卒業。昭和43年イリノイ大学大学院コンピュータサイエンス専攻修了。平成元年慶應義塾大学計測工学科教授。平成7年同大情報工学科教授。マルチメディア通信、コンピュータネットワーク、グループウェアなどの研究に従事。本会理事、副会長、マルチメディア通信と分散処理研究会主査、グループウェア研究会主査、電子情報通信学会情報ネットワーク研究会委員長、MIS研究会委員長、バーチャルリアリティ学会サイバースペースと仮想都市研究会委員長などを歴任。現在、本会ITS研究会主査、郵政省、通産省、建設省、農水省、都市基盤整備公団、行政情報システム研究所などの委員長、座長、委員を多数歴任。著書「やさしいLANの知識」(オーム社)、「201x年の世界」(共立出版)など多数。1993年本会Best Author賞、1995年および2000年本会論文賞、本会40周年記念誌Best Paper of '90s賞、VR学会サイバースペース研究賞、本会功績賞各受賞。電子情報通信学会フェロー。電子情報通信学会、人工知能学会、ファジイ学会、IEEE、ACM各会員。

村上 敬一 (正会員)

1951年生。1979年大阪大学大学院工学研究科後期課程単位取得中退。同年富士通入社。超音波診断装置などの医療機器の研究開発に従事した後、現在はPC/情報家電分野の研究開発に従事。IEICE、IEEE、ACMなど各会員。

屋代 智之 (正会員)

平成10年慶應義塾大学後期博士課程修了。同年千葉工業大学講師。現在、同大助教授。博士(工学)。高度道路交通システム(ITS)などの研究に従事。著書「コンピュータネットワーク」(オーム社)など。

矢田 哲士

東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター助教授。1989年九州大学理学部生物学科卒業。(株)三菱総合研究所、理化学研究所を経て、2001年より現職。博士(理学)。DNA配列情報のモデル化とその応用に関する研究に取り組んでいる。日本生物物理学会、日本分子生物学会各会員。
E-mail:yada@ims.u-tokyo.ac.jp

矢部 孝

現職：東京工業大学教授。数値計算法、レーザー加工、天体物理、数値気象を研究。著書「シミュレーション物理入門～超粒子モデルの世界」(朝倉書店)など。
E-mail:yabe@mech.titech.ac.jp
http://www.mech.titech.ac.jp/~ryuutai/yabejp.html

山崎 秀夫


1972年東京大学経済学部卒業。三井情報開発、欧州三井物産を経て、野村総合研究所勤務。現在同社上席研究員。専門は情報組織論、知識管理。

山本 喜一 (正会員)


1975年慶應義塾大学大学院工学研究科管理工学専攻博士課程単位取得退学。同大理工学部情報工学科助教授。工学博士。シミュレーション、ソフトウェア工学、ヒューマンインタフェース、ドキュメンテーションなどに興味を持っている。

湯山 一郎 (正会員)

1970年東京大学電気工学科卒業。同年NHK入局。1975年よりNHK技研にてHDTV、EDTV、立体テレビの研究に従事。現在、NHK-ESにて情報家電とネットワークの研究に従事。工学博士。



おひいすらん



私は昔から音楽が好きで、よくコンサートやライブに足を運んでいました。最近もよくライブに行っていて、今、あるバンドを応援しています。小さいライブハウスで活動しているインディーズバンドです。普通の人にはバンド名すら知らないような小さいバンドですが、その狭い世界ではある程度名前も知られているようなバンドです。メジャーデビューを目指して頑張っている彼らですが、同じような夢を見て活動しているバンドは数知れず。そう簡単なことではありません。しかも、今やバンド低迷期です。一時期、メジャーデビューも夢ではないというほど人気が出ていたのですが、事務所等の問題もあり、今は少し夢から遠ざかっている状態です。“解散”という言葉が何度も頭をよぎりました……

私が彼らのライブを見に行くようになったのはちょうど2年くらい前です。最初は見ているだけでしたが、今ではファンサイトという形で彼らのアンオフィシャルHPを運営していま

す。何度もライブを見ているうちに、ただライブを見て楽しむだけではなく、彼らの夢の手助けをしたいと思うようになったからです。最初は内輪だけで盛り上がっていたHPに、今では彼らが行ったことのない北海道や沖縄などの遠方のファンがアクセスしてくれています。ライブを見ることができない人達に彼らのライブの楽しさを伝えていけたらと思います。

10年前に私が応援していたアーティストが最近東京ドームのステージにたちました。この人も小さなライブハウスで見ていた人です。この人のように彼らも成功してほしい……。精力的にライブをこなし、今、また前向きに進もうとしている彼らを後押しすることができればと思います。

彼らは結成して約2年半を迎えようとしています。情報処理学会事務局に入社して私も丸3年が経ちました。彼らの頑張りには負けないよう、私も日々頑張ろうと思う今日この頃です。

(渡辺美也子/研究部門)

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約80名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実役に役立てていきたいと考えておりますので、毎号巻末に掲載しております所定の用紙をお使いいただき、奮って事務局までお寄せください。

(社) 情報処理学会 会誌部門 〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F
E-mail:editj@ipsj.or.jp Tel (03) 5484-3535 Fax (03) 5484-3534



Richard S. Sutton · Andrew G. Barto (著)
三上貞芳 · 皆川雅章 (訳)

強化学習

森北出版(株), 351p., 4,800円
SBN4-627-82661-3

人間があらかじめ与えた方法をそのまま実行するだけでなく、試行錯誤を通してより良い問題解決方法を発見する計算機プログラムの実現方法は、試行錯誤学習と呼ばれ、初期の人工知能研究において多くみられた。当初は多くの研究者たちが試行錯誤学習を指向し、さまざまなシステムが提案されたものの、体系化されないまま人工知能研究の焦点はパターン認識のような教師あり学習に移っていった。しかし、社会の情報化に伴い、計算機の自動的な問題解決への要求が質・量とも強まるなかで、試行錯誤学習が再び注目されはじめた。今日、試行錯誤学習は、TD学習、関数近似、および、確率的最適制御問題を解くためにOR分野で研究されていた動的計画法などのアイデアを取り入れ、強化学習として知られる研究分野となっている。

本書の原著は、近年の強化学習の発展に中心的な役割を果たしてきたR.S.SuttonおよびA.G.Bartoによって書かれ、現時点での強化学習の最も良い入門書として支持されている。

本書では、試行錯誤学習において重要となる探索中心か知識利用かのジレンマの問題、強化学習が扱う問題の定義と動的計画法理論との関係、関数近似を用いた場合の数理的性質やさまざまな応用研究例など、近年の強化学習の発展を知るうえで重要な研究成果が豊富な例を交えて分かりやすく述べられている。また、各章の終わりには、1950年代から近年までの膨大な関連研究についての概観がなされている。

本書は以下の3部構成になっている。

第1部 強化学習問題

- 第1章 序章
- 第2章 評価フィードバック
- 第3章 強化学習問題

第2部 基本的な解法群

- 第4章 動的計画法
- 第5章 モンテカルロ法
- 第6章 TD学習

第3部 統一された見方

- 第7章 適格度トレース

- 第8章 一般化と関数近似
- 第9章 プランニングと学習
- 第10章 強化学習の特徴軸
- 第11章 ケーススタディ

第1部では、強化学習の問題設定が示されるとともに、強化学習問題の動機付けと強化学習の歴史がまとめられている。また、正しい行動を教師データとして利用できない強化学習問題において学習の源となる評価フィードバックと、試行錯誤学習において生じる探索と知識利用のバランスを制御する問題が説明されている。そして、動的計画法理論から価値関数やベルマン方程式などを導入することで、マルコフ決定過程と呼ばれる環境モデルに基づいて強化学習問題が定義されている。

第2部では、強化学習問題を解くための3つのアルゴリズムが示されている。環境モデルに関する知識が利用できる場合に有効な動的計画法(4章)、環境モデルに関する知識が利用できない場合に、乱数を使って得られた経験のみに基づくモンテカルロ法(5章)、および、動的計画法とモンテカルロ法を組み合わせたTD学習法(6章)が説明されている。なお、TD学習は強化学習の中心となる手法である。

第3部では、強化学習を実際の問題に適用する際に有効なさまざまなメカニズムと、いくつかの応用研究が示されている。高速な学習を可能にするための適格度トレースを導入したアルゴリズム(第7章)、状態数が大きな問題を近似的に解決するために関数近似システム(第8章)、環境モデルの情報をより積極的に利用する方法(第9章)などが述べられている。また、本書で述べられたさまざまなアルゴリズムの分類と、応用研究の成功例が紹介されている。

本書は強化学習に興味を持つ研究者にとって、現時点での最良の入門書だろう。また、すでに強化学習に関する知識が十分あったとしても、本書の1.6節にまとめられた強化学習研究の歴史や各章末に記された関連研究の解説は読む価値があるだろう。原著の出版から2年後という早さで日本語訳が出版されたことは非常に喜ばしいことである。なお、本書は入門書という位置付けのため、数理的な厳密性や詳細に関しては省略されているので、それらを必要とする場合には、TD学習に基づく強化学習アルゴリズムに関しては文献1)が、動的計画法に関しては文献2), 3)などが参考になるだろう。

参考文献

- 1) Bertsekas, D.P. and Tsitsiklis, J.N.: Neuro-Dynamic Programming, ISBN:1-886529-10-8.
- 2) Puterman, M.L.: Markov Decision Processes, ISBN:0-471-61977-9.
- 3) Bertsekas, D.P.: Dynamic Programming and Optimal Control (Vol.1 and 2), ISBN:1-886529-11-6.

(佐藤 誠 (株) 東芝 研究開発センター)

各賞表彰(概要)

詳細は本号会告をご覧ください

平成12年度論文賞の表彰

平成12年度情報処理学会論文賞は、同委員会(村岡副会長他107名)において、「情報処理学会論文誌」第40巻10号～41巻9号に発表された419編につき慎重に審議が行われました。その結果下記8編が最終候補として推薦され、第462回理事会(平成13年3月)の承認を得て決定されました。なお、本会表彰規程により、5月18日に開催された第43回通常総会において、著者に表彰状、賞牌、賞金が授与されました。

- 「2部グラフ描画問題に対する近似アルゴリズム」
[論文誌 Vol.40, No.10, pp.3629～3637 (1999)]
山口 敦子君(正会員) 杉本 晃宏君(正会員)
- 「位置指向の情報の収集、構造化および検索手法」
[論文誌 Vol.41, No.7, pp.1987～1998 (2000)]
横路 誠司君(正会員) 高橋 克巳君(正会員)
三浦 信幸君(正会員) 島 健一君(正会員)
- 「Suffix arrayの効率的な構築法」
[論文誌 Vol.41, No.SIG1 (TOD5), pp.31～39 (2000)]
伊東 秀夫君(正会員)
- 「GigaE PM:Gigabit Ethernetを用いた高速通信機構の設計と評価」
[論文誌 Vol.41, No.5, pp.1390～1399 (2000)]
住元 真司君(正会員) 堀 敦史君(正会員)
手塚 宏史君(正会員) 原田 浩君(正会員)
高橋 俊行君(正会員) 石川 裕君(正会員)
- 「テレビ会議における映像表現の利用とその影響」
[論文誌 Vol.40, No.10, pp.3752～3761 (1999)]
井上 智雄君(正会員) 岡田 謙一君(正会員)
松下 温君(正会員)
- 「移動指向ネットワークアーキテクチャの設計と実装」
[論文誌 Vol.41, No.7, pp.2040～2048 (2000)]
舌間 一宏君 寺岡 文男君(正会員)
- 「匿名のままの権利行使を可能とした認証方式」
[論文誌 Vol.41, No.8, pp.2138～2147 (2000)]
佐藤 直之君 鈴木 英明君(正会員)
- 「ウェアラブル・コンピュータ向けリアルタイム Personal Positioning System」
[論文誌 Vol.41, No.9, pp.2404～2412 (2000)]
青木 恒君(正会員)

平成12年度Best Author賞の表彰

本学会では平成3年度から「Best Author賞」を設け、会誌「情報処理」に掲載された記事の中から、特に多数の会員の研修ならびに学術・技術の啓蒙、普及に貢献したものを選び、その著者を表彰することにしております。

本賞の選考は、表彰規程およびBest Author賞候補者選定手続きに基づき、選定委員会(委員長 石田晴久)が、会誌「情報処理」第41巻第1号～第12号に掲載された対象記事264編につき慎重に審議を行いました。その結果、下記の5編が受賞候補記事として選定され、第462回理事会(平成13年3月)の承認を得て決定されました。なお、本会表彰規程により、第43回通常総会(平成13年5月)において著者に表彰状および賞金が授与されました。

- 特集「実世界に近づくインタフェース技術」(Vol.41, No.2)
デジタルペット～心を持った機械達～
牛田 博英君 平山 裕司君
中嶋 宏君(正会員)

- 情報処理最前線 (Vol.41, No.6)
ビジネス特許で世界が変わる
高倉 成男君
- 連載「インタラクティブ・エッセイ」(Vol.41, No.8)
Javaセキュリティ・ホールにみる企業責任
高木 浩光君(正会員) 米田 英一君(正会員)
棟上 昭男君(正会員) 小林 正彦君
- 解説 (Vol.41, No.9)
PalmOS その魅力を探る
田中 秀樹君(正会員) 山田 達司君
- 特集「使いやすくなった自然言語処理のフリーソフトー知っておきたいツールの中身ー」(Vol.41, No.11)
形態素解析システム「茶釜」
松本 裕治君(正会員)

平成12年度Best Editor賞の表彰

本学会では平成11年度から「Best Editor賞」を設け、会誌「情報処理」に掲載された特集、連載(コラムを含む)の中から優秀な企画者を表彰し、誌面の一層の充実を目指すことといたしました。

本賞の選考は、表彰規程およびBest Editor賞候補者選定手続きに基づき、選定委員会(委員長 石田晴久)が、会誌「情報処理」第41巻第1号～第12号に掲載された対象者22名につき慎重に審議を行いました。その結果、下記の1君が受賞候補者として選定され、第462回理事会(平成13年3月)の承認を得て決定されました。なお、本学会表彰規程により、第43回通常総会(平成13年5月)において受賞者に表彰状および賞金が授与されました。

- コラム「乱世のアクセス・ネットワーク」(Vol.41, No.4～No.12)
三橋 昭和君(正会員)

平成12年度坂井記念特別賞の表彰

本学会では、平成4年度から坂井利之元会長(京大名誉教授)から寄贈された資金により坂井記念特別賞を設けております。

本賞は、情報処理に関する基礎・理論、ハードウェア、ソフトウェア、アプリケーションなどの各分野の研究・開発に携わっている研究・開発者で、学術・技術の進歩に顕著な貢献が認められ、今後の進歩、発展が期待される39歳まで(推薦締切日現在)の研究・開発者を対象としています。

本年度の受賞者は「坂井記念特別賞候補者推薦書」により推薦された候補者12名から、表彰規程および坂井記念特別賞候補者選定手続きに基づき、村岡副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、第462回理事会(平成13年3月)の承認を得て、下記の4君に決定されました。

なお、本会表彰規程により、5月18日に開催された第43回通常総会において、受賞者に表彰状および賞金が授与されました。

- ハードウェア分野
「VLSIの上流自動設計検証システムの研究・開発」
若林 一敏君(正会員)
- ソフトウェア分野
「携帯電話インターネットの研究開発および国際標準化」
鎌田 富久君(正会員)
- ソフトウェア分野
「ITRON仕様に関する研究・開発と標準化」
高田 広章君(正会員)
- アプリケーション分野
「高精度かつ汎用的な音声認識ソフトウェアの開発」
河原 達也君(正会員)

この春、我が家にAIBOがきた。最初に発売されたころは話重にもなっていたが、今になって、まさか自分が買うとは思ってもしなかった。2代目AIBOは仔ライオンをモデルにしているらしいが、大きさも耳の形もネコを想像させる。色は、期間限定でオレンジと白も発売されていたが、基本色の中からゴレドのものを選んだ。買うとは思ってもしなかった私が買ったのは、祖母へのプレゼントのためだった。以前、ニュースで高齢者の方が、もしくは高齢者用に買う人が多いというのを聞いたことがある。我が家もまさにそうだが、明治生まれの祖母がどういう反応の示すのか少し楽しみだった。たぶん訳が分からないに違いない。説明しても、たぶん分からないだろうと思いつながりの購入...

祖母に渡す前日に、念のため動かしてみた。胸のところのスイッチを押すと、まだ充電していないから動かないだろうと思っていたが、音が鳴って動き出した。ちょっとしたことだが、親切的なサービスに少し感激した。だが、肝心のAIBOは一定のことしかしないので、「なーんだ、高価なわりにはつまらないな」と思ったのが最初の印象だった。バッテリーが切れると、胸のランプが消え、首をガクッとうなだれた何とも哀愁をそそる格好のまま動かなくなった。

次の日、祖母の前に出してから、説明書を読み、メモリースティックをAIBO本体に入れた。すると、途端に赤ちゃんAIBO

になり、床に這いつくばったまま、ただ鳴くだけのAIBOになってしまった。説明書を読んでみると、どうやら一番最初の幼年期という段階らしい。「そーか、ここからスタートなのか!」と可笑しく思った。だが、歩いたりしないのでつまらない。しばらくこの状態か... ん〜、いつまでだろう。

あれからしばらく経ち、現在は青年期にまで成長した。お手やおかわりもできるようになり、名前も覚えて、立ち上がってあたりをガタガタ歩き回っている。たまに愛嬌をふりまく仕種をしたり、ひとりで歌ったり、踊ったりしている。まともに相手をしていると、結構疲れるので適当にかまっているが、祖母も退屈なときに、スイッチを入れて何か語りかけている。これで母と私の目的は達せられたようなものだ。

どうせ機械だもの、プログラムされた動きしかできないのだろう、先がみえてつまらないなあとつついってしまう私であるが、祖母はやはり不思議に思っているらしい。というか昔は考えもつかなかったものが、今、自分の目の前にあることに驚いているようだ。

隣で祖母がAIBOの相手をしているのを聞きながら、その様子を見てみるとやはり本物の弾むような動きには到底及ばない。犬好きの私としては、ますます本物の犬を飼いたいという気持ちが膨らんだ結果となった。

(湯本祐子/会誌部門)

訂正

本誌42巻3号(2001年3月号) pp.296-297に掲載されましたコラム「本当のインターネットをめざして：電波とインターネット」に誤りがありました。関係者の皆様にお詫びするとともに、以下の通り訂正いたします。

p.297 右段22行目

(誤) 電波とインターネットアクセス網

(正) 電波行政とインターネット

訂正

本誌42巻4号(2001年4月号) pp.393-399に掲載されました連載解説「IBM RS/6000とPOWERアーキテクチャの10年間<前編>」に誤りがありましたので、以下の通り訂正いたします。

p.395 右段8行目

(誤) (fp6にy(1)がロードされ、fp8にx(1)*a11が、fp7にx(1)*a21が作られ)、

(正) (fp6にy(1)がロードされ、fp7にb1+x(1)*a11が、fp8にb2+x(1)*a21が作られ)、

p.395 右段10行目

(誤) a11, ..., b2の6変数はこのループに入る前に

(正) a12, a22, b1, b2, a11, a21の6変数はこのループに入る前に

p.396 図-2

(誤) a11*x(i+1)

(正) b1+a11*x(i+1)

(誤) x(i+1)*a21

(正) b2+x(i+1)*a21

会員の広場

今月の会員の広場では、3月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。

まず、3月号の特集「ネットワークバーチャルリアリティ」と「ケータイの科学」に対しまして、以下のご意見をお寄せいただきました。

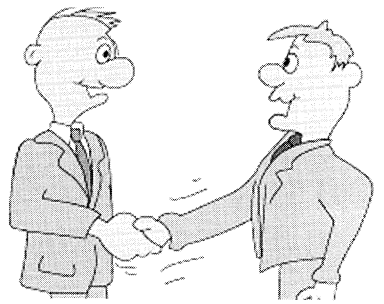
■ネットワークバーチャルリアリティというテーマはとてもよかったのだが、映し出されている画像の貧弱さに興味を一気にそがれてしまい読まなかった。かつて、バーチャルリアリティを使ったショッピングモールの実験に参加したことがある。ユーザの立場として問題点をあげると、とにかく絵が貧弱なのでどうも仮想空間という感じがしない。つまり、自分で動かしているのに、そこに写っているのは自分でないような感じを受けてしまう。しかも、ポリゴンで描いて動かしていたのだがグラフィクスチップの貧弱さゆえか動きが非常に悪い。これは駄目だなと思ったときと同じような画像が出ている。実験プロジェクトゆえグラフィクスに凝るのは、プロのデザイナーではないから無理だとあきらめてしまっただけではない。そう思ったその瞬間にそのプロジェクトの価値が減っていくと思う。「今はここまでできました」ではなくて「将来はここまでできます」といった形が欲しかった。(藤田泰則)

■岡田先生が執筆された「サイバースペース上のバーチャルリアリティ協調仮想環境」において、コンピュータ制御の香り発生装置を試作、香り転送プロトコルなるものも検討されているとのこと。大変興味深く読ませていただきました。さしずめデジタル芳香技術とでもいうのでしょうか。担当している大学の情報科学系講義で「情報」とは何ぞや? と、学生といっしょに考察する際、人間が持つ五感のうち視覚と聴覚が感知できるデータはデジタル化可能で、残りの3つはデジタル化が難しいとしてきましたが、嗅覚については再検討の余地がありそうですね。もしかするとすでに味覚と触覚のデジタル化の試みが行われているのかもしれませんが。こうなると現実空間と仮想空間は、人間の五感という面から見ると限りなく等しく再現できることになるのでしょうか。(神村伸一)

■専門的過ぎる特集は読んでよく分からないので、読む気がなくなってしまうが、今回の特集「ケータイの科学」は一般の技術者向けに書かれてあったので、大変興味深く読むことができた。特に技術者は経営動向と無縁でなくなってきたので、こういう記事が書かれると勉強になります。(匿名希望)

■特集「ケータイの科学」を興味深く読ませていただきました。今年は、java機能の搭載やIMT-2000などケータイが情報端末として大きく飛躍しそうで楽しみです。(匿名希望)

■今回は大変読みごたえのある記事が多く楽しんで読みました。ただ、ケータイにしろネットワークバーチャルリアリティにしろ、現在そして未来への社会への影響は計り知れないものがある技術です。技術面からだけでなく社会的な影響の観点から述べた記事があってもおもしろかったのではと思えました。(藤井研一)



また、3月号の解説記事に対しまして、以下のご意見をお寄せいただきました。

■「電子署名法」、「ソフトウェア料金とライセンス方式」、「電子商取引」を拝読し、情報技術や教育の普及も重要だが、この記事にあるような社会インフラが整備されて初めて真情報化社会が成り立つのではないかと感じた。(匿名希望)

■解説「電子署名法の概要」は、興味深く読むことができました。我々研究開発者はどうしても技術的な進歩ばかりに目奪われてしまいがちですが、技術が実際に広く使われるためには、法律的な枠組みも重要であることを実感させられました。一方で、法律など技術以外の要素が、技術の発展を阻害したり芽を摘み取ったりしないかという不安も感じます。(匿名希望)

■Eコマースの発展とともにコンピュータサイエンスもそ般に閉じこもっていき、法的・政治的にも関心を持ち、社会に対して貢献する必要性を感じた。(登内敏夫)

■解説「電子署名法の概要」に関して：従来、情報処理といえば、理工学系の領域といわれ、最近の言語学研究の興隆によって、人文科学(言語学)との接点が生まれました。新しく電子署名法が制定されたことによって、法学との接点が生れました。社会科学系では、経済学の領域で接点がありましたが、これからは、法学研究者にとっても、情報処理研究が取り組むべき課題となったと考えます。しかしながら、法学研究の多くは、理工系研究者がその論文等で多用する数式とは縁であり、むしろ敬遠する傾向にあります。だからといって数式を敬遠しては、情報処理研究はできません。今後、学研究者にとって分かりやすい、情報数学の基礎知識のような連載コラムができることを期待します。たとえば、理工系研究者にとっては常識である、微積分は、法学研究者にとっては無縁だからです。(水野光朗)

■4/1から「電子署名・認証」の法律が施行されることに関してタイムリーに掲載されたこともあり、284ページの「電子署名法の概要」や316ページの「電子商取引における情報処理技術と社会とのかわり」を、特に興味を持って読ませていただきました。現時点では完璧な法律ではないが、今後さらに良を加えてより良い法律になることを期待したい。284ページの「電子署名法の概要」について国別の比較は、表形式にして方がもっと分かりやすかったのではないかと思います。執筆者の今後の工夫に期待したい。(村田一夫)

■解説「電子データ処理フロンティアでの先駆者として：人的回想録」は大変楽しく読めました。SAINT-2001のレポートにもIEEE-CSと情報処理学会の協力関係をさらに強化するとありますので、これからも多くの面白い翻訳記事が掲載されるようになるとうれしいです。(松井藤五郎)

■Birkenstock氏の回想を大変興味深く読んだ。中堅以上の研究者の方は、日本の(そしてもちろん世界の)情報科学の発展に対するIBM社の寄与の大きさはよく理解されていると思う。そのときになされた日本へのコンピュータ技術の導入が、その後の日本の産業全体に与えた影響は非常に大きかっただろうと推測される。ちまたで話題となっている今日のIT戦略の重要性を再確認するためにも、このような旧事を振り返ることが大事なことだろう。(金子 格)



Members' Voice

3月号のインタラクティブ・エッセイでは、PDAのアプリケーション研究に関する話題を取り上げましたが、以下のようなご意見をお寄せいただきました

本文中、顔文字が使われています。学術研究において、顔文字を使うことには抵抗を感じます。たとえば、学位論文において、顔文字を使った場合、どのような評価を受けるのかを考えると分かります。(水野光朗)

インタラクティブ・エッセイを大変興味深く読ませていただきました。(大塚真吾)

インタラクティブ・エッセイ「みんなでPDAのアプリケーション研究を盛り上げよう！」は楽しく読ませていただきました。アプリケーションの評価の難しさがよく分かりました。

(匿名希望)

大学でアプリケーションの研究が進まない(認められない?)のは、熾烈な開発競争を繰り広げているアプリケーションの研究分野では、企業の方がはるかに進んでいることも一だと考えられる。このため、大学では従来からの自分の研究継続を行うことに執着せざるを得ない状況になっているのではないだろうか。またアプリケーションの研究は、基本的に発したものが商品化(具体化)される実用化研究であるため、使い物になるのかが研究評価の大きなポイントと考えられ、一般人にも研究成果が分かりやすいため、大学の研にはなじまない(?)とも考えられる。

(匿名希望)

その他の3月号の記事に関しまして、多数のご意見をお寄せいただきました。

コラム「米国インターネット事情」は毎回楽しく読んでいます。今回の「30秒で230万ドルのテレビCM」も米国ドット・コム企業の盛衰という点で興味深いものでした。新しい技術のインターネットが、旧来のテレビ・マスメディアを使わない生き残れないのは、技術の成功とビジネスの成功は別物だ分かっていても、技術者としてはもどかしさを感じます。

(匿名希望)

コラム「SEの知恵袋：SE諸君 時代の変化をつかめ」につきまして、システム開発の能力(コンピュータ技術)を養うこと、システムの中身(商売の知識やノウハウ)を学ぶことがSEにとっては必要であると考えますが、両立あるいはバランスとるのはなかなか難しいと思い、そういった点をどうすれ

ばバランスよく身につけることができるのかのご意見があればと感じました。

(匿名希望)

今後取り上げてほしいテーマとして、以下のご要望をお寄せいただきました。

■4/1からリサイクル法が施行されることに関連して「環境」と「情報処理」に関する情報。(村田一夫)

■エクセル、ビジュアル・ベーシック等のツール・言語の普及によって、「エンドユーザ・コンピューティング」は一般化したのだろうか?(匿名希望)

会誌の全般的な編集方針や、編集委員会への改善提案のご要望をお寄せいただきました。今後の参考にさせていただきます。

■書評を、毎月掲載してほしい。書評が無理であれば、せめて新刊紹介でもお願いできればと思います。大学図書館で購入する際、書評のある研究書は優先的に購入されることが多いので。(水野光朗)

■会誌編集委員会への改善提案とお願い(1)表現法、表示法についての改善提案。(a) 会員の広場での先頭の「□→■」にした方が分かりやすい。(b) 表.nは、表の上に表示。図.nは、図の下に表示。(c) 用語の説明欄を入れた方が良い。(d) 容量の単位は、統一を。(e) ページ297のサブタイトル「電波とインターネットアクセス網」がダブっている。(2) お願い：「会員名簿」情報の取扱いには、細心の注意をお願いします。(村田一夫)

■2001年2月号のWebにも書きましたが、目次の順番通りにアンケートも並べていただきたくよろしくお願いたします。(井上良彦)

会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会ウェブページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

【本欄担当 永井保夫、井上恵介/書評・ニュース分野】

WWW版会員の広場「読者からの声」<URL:http://www.ipsj.or.jp/katsudou/mag/dokusha.html>では、今回掲載できなかったご意見を紹介していますので、そちらもご参照ください。

ご意見をお寄せください!!!

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、
・記事に対する感想、意見
・記事テーマの提案
・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言
など、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。
なお、「道しるべ」については
<URL:http://www.ipsj.or.jp/katsudou/mag/michishirube.html>
でこれからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。
ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

応募先 〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F
情報処理学会 会誌担当 E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)5484-3534
http://www.ipsj.or.jp/enq/enq4206.html



IPSJカレンダー

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
第1回システム評価研究会	岡山大	6月15日 (金)	当日のみ		42-5 会5p	研
関西支部「第1回ビジュアル インフォメーション研究会」	大阪産業創造館	6月15日 (金)			42-5 会14p	西
連続セミナー2001 第1回 「モバイルサービス」	工学院大	6月19日 (火)	定員になり次第		42-6 会24p	事
第34回プログラミング研究会	情報処理学会	6月21日 (木) ～22日 (金)	当日のみ		42-5 会6p	研
グラフィクスとCAD/Visual Computing 合同シンポジウム2001	北大	6月21日 (木) ～22日 (金)		平成13年 3月23日 (金)	42-6 会23p	研
第35回数理モデル化と問題解決研究会	Monte Carlo Resort (USA)	6月25日 (月) ～28日 (木) のいずれか1日			42-5 会7p	研
第77回情報システムと社会環境研究会	情報処理学会	6月26日 (火)	当日のみ		42-5 会6p	研
マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2001) シンポジウム	ルネッサンス リゾートナルト	6月27日 (水) ～29日 (金)	6月 1日 (金)	3月12日 (月)	42-5 会8p	研
第132回ソフトウェア工学研究会	TIME24ビル	6月28日 (木)	当日のみ		42-6 会13p	研
第87回システムソフトウェアと オペレーティング・システム研究会	はこだて未来大	6月28日 (木) ～29日 (金)	当日のみ		42-5 会6p	研
第128回コンピュータビジョンと イメージメディア研究会	東大駒場	7月 5日 (木) ～ 6日 (金)	当日のみ		42-6 会13p	研
INTERACT2001	早大国際会議場	7月 9日 (月) ～13日 (金)		平成12年 11月20日 (月)	41-5 会12p	事
第51回人文科学とコンピュータ研究会	駿河台大	7月13日 (金)	当日のみ		42-6 会13p	研
第37回音声言語情報処理研究会	鬼怒川温泉ホテル	7月13日 (金) ～14日 (土)	当日のみ		42-6 会13p	研
第144回自然言語処理研究会	公立はこだて未来大	7月16日 (月) ～17日 (火)	当日のみ		42-6 会14p	研
第124回データベースシステム研究会	湯の川温泉	7月17日 (火) ～19日 (木)	当日のみ		42-6 会14p	研
第94回ヒューマンインタフェース 研究会	山形厚生年金 休暇センター	7月18日 (水) ～19日 (木)	当日のみ		42-6 会16p	研
中国支部「講習会：コージェネレーション システム」	中電工	7月19日 (木)	定員になり次第		42-6 会29p	中
DAシンポジウム2001	遠鉄ホテル	7月23日 (月) ～25日 (水)	6月15日 (金)	平成13年 3月 9日 (金)	42-5 会9p	研
第63回情報学基礎研究会	学術総合センター	7月24日 (火) ～25日 (水)	当日のみ		42-6 会17p	研
第14回コンピュータセキュリティ 研究会	機械振興会館	7月25日 (水)	当日のみ		42-6 会17p	研
第136回計算機アーキテクチャ研究会	沖縄コンベンション センター	7月25日 (水) ～27日 (金)	当日のみ		42-6 会18p	研
第87回ハイパフォーマンス コンピューティング研究会	沖縄コンベンション センター	7月25日 (水) ～27日 (金)	当日のみ		42-6 会19p	研
第88回システムソフトウェアと オペレーティング・システム研究会	沖縄コンベンション センター	7月26日 (木) ～27日 (金)	当日のみ		42-6 会20p	研
第35回プログラミング研究会	沖縄コンベンション センター	7月26日 (木) ～27日 (金)	当日のみ		42-6 会20p	研
第79回アルゴリズム研究会	中大	7月27日 (金)	当日のみ		42-6 会20p	研
第22回分散システム/インターネット 運用技術研究会	高知工科大	7月27日 (金)	当日のみ		42-6 会21p	研
第29回デジタル・ドキュメント研究会	情報処理学会	7月27日 (金)	当日のみ		42-6 会21p	研
2nd International Conference on Software Engineering, Artificial Intelligence, Networking & Parallel/Distributed Computing (SNPD '01)	名工大	8月20日 (月) ～22日 (水)		2月20日 (火)	41-12 会24p	事
情報教育シンポジウム Summer Symposium in Shinshu (SSS) 2001	戸倉上山田温泉	8月21日 (火) ～23日 (木)		5月11日 (金)	42-3 会5 p	研
オブジェクト指向2001シンポジウム	法政大	8月22日 (水) ～24日 (金)	8月10日 (金)	4月13日 (金)	42-6 会24p	研
夏のプログラミング・シンポジウム 「プログラミングの鉄人—プログラミング の技」	北海道池田町	8月22日 (水) ～24日 (金)	7月 6日 (金)	6月 8日 (金)	42-4 会26p	事
連続セミナー2001 第2回 「電子政府の進展と住民サービス」	工学院大	9月 7日 (金)	定員になり次第		42-6 会24p	事
第34回情報科学若手の会	芳泉閣	9月13日 (木) ～15日 (土)	7月31日 (火) 必着		42-6 会25p	事
情報処理学会第63回全国大会	山口大	9月26日 (水) ～28日 (金)		6月22日 (金)	42-5 会11p	事

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
九州支部「電気関係学会九州支部第54回連合大会」	佐賀大	10月 5日 (金) ～ 6日 (土)		7月31日 (火) 17時必着	42-6 会29p	九
連続セミナー2001 第3回 「コンテンツ流通サービス」	工学院大	10月10日 (水)	定員になり次第		42-6 会24p	事
MPSシンポジウム	同志社大	10月18日 (木) ～19日 (金)		7月13日 (金)	42-6 会27p	研
第6回ゲーム・プログラミング ワークショップ	箱根セミナーハウス	10月26日 (金) ～28日 (日)		6月29日 (金)	42-4 会27p	研
関西支部「平成13年度電気関係学会関西支部連合大会」	神戸市立高専	11月 6日 (火) ～ 7日 (水)		8月 6日 (月) 18時	42-6 会29p	西
コンピュータシステム・シンポジウム	東京国際展示場	11月19日 (月) ～20日 (火)		8月24日 (金)	42-6 会27p	研
連続セミナー2001 第4回 「サービスプラットフォーム技術」	工学院大	11月27日 (火)	定員になり次第		42-6 会24p	事
20th International Conference on Conceptual Modeling (ER2001)	横浜	11月27日 (火) ～30日 (金)		4月20日 (金)	42-1 会11p	国
東海支部「平成13年度電気関係学会東海支部連合大会」	豊橋技科大	11月29日 (木) ～30日 (金)		8月24日 (金) 消印有効	42-6 会30p	海
連続セミナー2001 第5回 「E-マーケットプレイス」	工学院大	平成14年 1月18日 (金)	定員になり次第		42-6 会24p	事
The 2002 Symposium on Applications and the Internet (SAINT-2002)	奈良	1月28日 (月) ～2月 1日 (金)		3月15日 (木)	41-8 会20p	事
連続セミナー2001 第6回 「家庭情報化サービス」	工学院大	2月25日 (月)	定員になり次第		42-6 会24p	事
論文誌投稿締切		発行予定月		論文/応募締切	掲載頁	担当
論文誌特集号「並列処理」		平成14年4月		8月31日 (金)	42-6 会28p	論
論文誌特集号「システムLSIの設計技術と設計自動化」		平成14年5月		9月14日 (金)	42-5 会14p	論
論文誌特集号「電子社会に向けたコンピュータセキュリティ技術」		平成14年8月		11月30日 (金)	42-6 会28p	論

Webページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報 - What's New より -

■2001年5月21日

- ・第43回通常総会報告/第463回理事会報告
- ・平成13年度役員名簿

■2001年5月16日

- ・第462回理事会報告

■2001年5月15日

- ・SAINT2002 paper submission 締切変更 (募集枠に余裕がありますので、5月15日締切りを5月末日まで延ばします。奮ってのご応募をお待ちしております)

■2001年5月10日

- ・著作権委員会議事録抜粋を載せました。

記1) カレンダーは本会主催・共催の行事を会告既掲載分より抜粋しています。

記2) 研究会の発表申込締切は開催日の90日前です。

記3) 担当欄の記号は次のとおりです。研: 調査研究, 事: 事業, 国: 国際, 論: 論文誌, 編: 会誌, 総: 総務, 経: 経理, 会: 会員, 規: 情報規格調査会, 北: 北海道支部, 東: 東北支部, 海: 東海支部, 陸: 北陸支部, 西: 関西支部, 中: 中国支部, 四: 四国支部, 九: 九州支部。各行事についての問合せ等は担当までお願いします。

記4) 掲載頁欄の記号は次のとおりです。本: 本誌, 会: 会告 (付録), 全大: 全国大会プログラム (付録)

ご意見をお寄せください!

【7月10日頃までにお出しください】

宛先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからも送付できます)
http://www.ipsj.or.jp/enq/enq4206.html Fax(03)5484-3534 E-mail:editj@ipsj.or.jp
(E-mailで送信される場合は、10-1-aのようにコードでお答えください)

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. ()
3. E-mail:
4. 業種: (a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (大学・高専など)
(e) 学生 (f) その他 4-
5. 職種: (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官 (大学・大学院) (h) 教職員 (小・中・高校・高専など)
(i) 学生 (j) その他 5-
6. 年齢: (a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6-
7. 性別: (a) 男性 (b) 女性 7-
8. あなたはモニタですか?: (a) はい (b) いいえ 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」に掲載される場合があります。その場合:
(a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 9-
10. 今月号 (2001年6月号) の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
(あなたの評価は年度のBest Author賞選定の際の資料となります。評価は以下の5段階評価をお願いします。)
[a…大変参考になった b…よい c…普通、どちらとも言えない d…悪い e…読んでいない]

[ページ]

- 【特集】コンピュータが描く科学の世界
- 543 計算科学 10-1-
 - 550 複雑形状の複雑でない計算法 10-2-
 - 557 計算流体力学 10-3-
 - 564 ベタコンピューティングのユニバース (森羅万象) 10-4-
- 【解説】
- 576 Dharma さまざまなインターネット端末にコンテンツを適応させるソフトウェア技術 10-5-
 - 582 勢力範囲に基づいたチームスポーツ解析 10-6-
 - 587 テレコム文化の後退とIT革命の進展 10-7-
 - 593 情報家電をどう捉え、どう歩みだすのか 10-8-
 - 600 ヒトゲノムドラフト配列データの情報処理 10-9-
- 【報告】
- 570 情報処理学会創立40周年記念展示会情報技術のエポック展報告 10-10-
- 【道しるべ】
- 617 文字認識技術 10-11-
- 【コラム】
- 606 SEの知恵袋: SEと消えたチーズ 10-12-
 - 608 本当のインターネットをめざして: 公開鍵暗号系? 10-13-
 - 610 米国インターネット事情: eToys, おまえもか 10-14-
 - 612 現代・コンピュータ市場: ブロードバンド時代のビジネスモデルは何か 10-15-
 - 614 ブロードバンド時代と通信料金: 歴史的にみるインターネット利用料金の考え方 (上) 10-16-
11. 特に興味を持ってお読みになった記事・著者への質問・取り上げて欲しいテーマなどをお書きください。
また「道しるべ」に取り上げてほしいテーマを募集しています。

最近の特集テーマをみると、データマイニング、モバイルコンピューティング、バーチャルリアリティ、携帯、マルチメディア、自然言語処理、モデリング技術、情報検索、ウェアラブル・コンピュータなど、まさに「今風の」コンピュータ関連キーワードが並んでいる。「情報処理」という名に実にふさわしい(?)記事たちである。そういう意味では本特集はちょっと異色だったかもしれない。交通シミュレーションやら、論理シミュレーションならいざ知らず、物理学、宇宙、天文、化学、遺伝学のシミュレーションである。

シミュレーションに関する特集は1996年に組まれているが、シミュレーション言語のサーベイや、計算物理学用超並列計算機に触れたもので、本特集のような科学分野のシミュレーションを話題にしたものはないに等しい。唯一、昨年の解説記事、地球シミュレータくらいだろうか。本特集著者も、日頃は情報処理学会にはあまり縁のない物理学、精密機械などのバックグラウンドを持つ方々ばかりである。その意味で、扱う応用の詳細をいうと難しくなりすぎるし、かといって絵を見せるだけでは話は繋げないしと、著者の方々にばご苦労いただいた。

あとは、せっかく特集を組んだのだから、ぜひ1人でも多くの方に読んでいただきたい。しかし、ちょっと式なんぞ出てくると、読者に「パス」されそう..と、CM中のチャンネル変更を恐れるドラマ制作者のように悩んだ末、専門外ながら、私が、本の帯のキャッチコピーよろしく宣伝文句を、特集巻頭言を書くことにした。はたして効果はあるのか?

実は、私は今年3月で、4年という長い編集委員の任期を終え、この特集担当は、引き続き事項ゆえのエクストラ編集員としての仕事である。というわけで、この特集の評価は、幸か不幸か耳に入らない仕組みになっている。(ほっ) 任期の後半は、ほとんど幽霊部員であったが、自分とは異なる分野の人と知り合ったり、話を聞けたり、勉強になった。ご一緒させていただいた編集委員の方々、事務局の方々に感謝したい。また、本特集に苦勞の末原稿を寄せてくださった著者の方々、連休中もいとわず精力的に仕事をされた事務局鈴木啓子氏、編集主査深谷哲司氏に感謝する。

(緑川博子/本特集エディタ)

次号(7月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」グローバル・ネットワーク社会を構築するXML

Webデータベースの基盤技術としてのXML/B2BからWebサービスへ向かうe-Business/e-BusinessにおけるXML/電子政府におけるXML利用技術の動向/XMLを利用したコンテンツ流通情報管理機構の現状と課題/次世代WAPマークアップ言語(WML2.0)

解説

- さきがけ研究21「情報と知」領域の挑戦.....安西祐一郎
- 痛快! サポートベクトルマシン.....前田英作
- アノテーションに基づくデジタルコンテンツの高度利用<前編>.....長尾 信
- 塩銀写真 vs デジタルカメラ.....大野 信
- MBRとその金融と信問題への適用.....松本和宏 他
- 次世代インターネットイクスチェンジの技術動向.....中川郁夫 他

連載 インタラクティブ・エッセイ

コラム SEの知恵袋/研究会たより/現代・コンピュータ市場/ブロードバンド時代と通信料金/米国インターネット市場/本当のインターネットをめざして

会員募集中!!

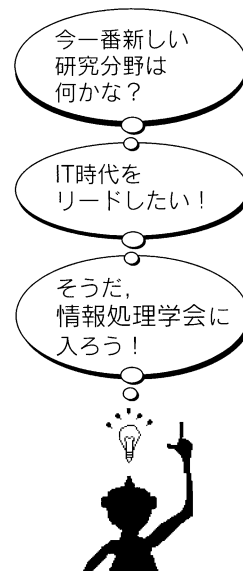
▶ ITの最新情報, 研究発表の場の提供を通じて, あなたのお役に立ちます.

詳しくはWebサイト <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

申込/照会先 社団法人 情報処理学会

〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F

Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534 E-mail:mem@ipsj.or.jp



掲載広告カタログ・資料請求用紙

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、必要事項をご記入の上、E-mail:sei@ss-com.co.jpまたはFax.03-3368-1519へご請求ください。

「情報処理」 月号をみて

広告主名	製品名	希望項目※	その他要望事項

※希望項目：A 購入希望，B 担当者から連絡・訪問希望，C カタログ希望

フリガナ
お名前

勤務先

所属部署

所在地

(〒 -)

TEL () -

FAX () -

ご専門の分野

広告のお問合せ・お申込みは・・・ 広告総代理店 (株) 精機通信社へ

発行 社団法人 情報処理学会
 発行部数 30,000部
 体裁 A4判
 発行日 毎当月15日
 申込締切 前月10日
 原稿締切 前月20日
 広告原稿 オフセット用ポジフィルム
 原稿寸法 1頁 天地260mm×左右180mm
 1/2頁 天地125mm×左右180mm
 雑誌寸法 天地297mm×左右210mm

お問合せ・お申込みは

広告総代理店

(株) 精機通信社 Tel.03-3367-0571

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-16-13

Fax.03-3368-1519 E-mail: sei@ss-com.co.jp

■ 広告料金表

掲載場所	4色	2色	1色
表2	330,000	—	—
表3	275,000	—	—
表4	385,000	—	—
表2対向	300,000	—	—
表3対向	265,000	190,000	155,000
前付1頁	250,000	165,000	135,000
前付1/2頁	—	—	80,000
前付最終	—	—	148,000
目次前	—	—	148,000
差込 (A4判70.5kg未満 1枚)	275,000		
差込 (A4判70.5kg～86.5kg 1枚)	350,000		

* 上記料金はポジフィルム納入による料金です。

* 版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます。

* 断切広告は上記料金の10%増です。ただし、表4は不可。

* 上記料金には消費税は含まれておりません。